

開催地名	北海道 共和町
開催日時	令和6年10月23日(水)9:30~11:00
開催場所	北辰小学校
語り部	竹田 彰(北海道奥尻町)
参加者	北辰小学校 児童・教員 78人
開催経緯	共和町では近年、大きな災害が発生しておらず、町職員や町民の方々の防災についての関心・意識があまり高くないのが現状。 実際に災害を体験した方の話を聞くことで、住民の防災意識の高揚につながることを期待し今回開催した。
内容	■ はじめに 竹田氏は、1993年に発生した北海道南西沖地震を奥尻島で体験し、当時役場職員として対応にあたった経験をもとに、防災の重要性について語った。防災訓練を毎年行う理由として、人間は時間が経つと災害の記憶を忘れてしまうため、繰り返し学ぶことが重要であると強調した。また、震度7の地震が発生した場合、建物がどのような影響を受けるのか、そして適切な身の守り方(シェイクアウト)の実践について説明があった。 特に、地震の揺れは通常1分程度で収まるため、その間に安全な姿勢を取ることが重要であり、目を必ず開けて周囲の状況を把握することが求められる。さらに、この50年間で震度7の地震は日本国内で7回発生しており、地震のリスクは日本中どこでも存在することを認識する必要があると述べた。 ■ 北海道南西沖地震の被害と津波の脅威 講演では、北海道南西沖地震発生当時の写真を示しながら、奥尻島の被害状況が説明された。地震が発生すると、インフラが広範囲にわたり破壊され、電気・水道・通信手段が途絶え、住民は避難生活を余儀なくされた。 特に、津波の恐ろしさについて詳しく語られた。津波は通常の波とは異なり、海そのものが押し寄せる現象であり、その速度は最大時速700kmにも達する。これは新幹線の数倍の速度よりも速く、一度津波が発生すると逃げ遅れると命を守るのが困難になる。そのため、地震が発生したら「すぐに高い場所へ逃げる」という行動が、津波から生き延びるために最も重要であると強調された。 ■ 避難所生活の課題と改善策 避難所生活についても言及され、特に注意すべきポイントとして、感染症対策が挙げられた。災害時には人が密集するため、特に高齢者は抵抗力が低下し、感染症にかかりやすい状況になる。避難所では衛生管理を徹底し、こまめな手洗いやマスクの着用が推奨される。 また、長期間避難所で生活することの大変さについても語られた。特に、床に直接寝ることで身体の負担が大きくなるため、現在では段ボールベッドが導入されるなど、避難環境の改善が進んでいる。それでも、避難生活は精神的・肉体的に厳しいものであるため、災害が起きたときに備えて、自宅での備蓄や避難場所の確認を日頃から行うことが大切である。 さらに、災害時の排泄管理についても触れられ、「我慢しないこと」が重要であると指摘された。災害時にはトイレの使用が制限されることが多いが、無理に我慢すると健康被害を引き起こす可能性がある。現在では、簡易トイレや携帯トイレの普及が進んでいるため、各家庭でも備えておくことが推奨される。 ■ 児童向けクイズで学ぶ津波の知識 講演の最後には、児童向けに津波の速さについてクイズが出題された。 「津波の速度は新幹線より速いか、遅いか？」 答えは「速い」。津波は最大時速700kmにも達し、新幹線の速度(約300km/h)よりもはるかに速い。そのため、津波が発生したら、迷わず直ちに高台へ避難することが重要であることが改めて伝えられた。

■ まとめ

竹田氏は、北海道南西沖地震の経験をもとに、地震と津波の怖さを伝え、防災対策の重要性を強調した。特に、「地震が発生したらすぐに高台へ逃げる」という行動の大切さを訴えた。また、避難所生活の課題や改善策についても具体的に説明し、感染症対策やトイレ管理の重要性についても触れた。

災害はいつ発生するかわからないが、事前に知識を持ち、準備をしておくことで生存率を大きく高めることができる。本講演を通じて、参加者は防災意識をさらに高め、日頃の備えの大切さを再認識する機会となった。



開催地より

震災後の写真や災害を体験した語り部の方の体験談を聞いたことで、改めて共和町として防災対策を考えていかなければならないと実感した。また講話を聞いた小学生においても将来の糧になる、貴重な体験ができた。